

2. アスパラガスを加害するネギアザミウマに対する 各種殺虫剤の防除効果

1. 背景とねらい

近年、広島県のアスパラガス産地では、主要害虫のネギアザミウマの被害が顕在化し、問題となっている。そこで、アスパラガスを加害するネギアザミウマに適用がある農薬(クロチアニジン水溶剤(ダントツ)、アセタミプリド水溶剤(モスピラン)、スピノサド水和剤(スピノエース)、ピリダリル水和剤(プレオ))について圃場試験により防除効果を検討し、有効な防除対策に資する。

2. 成果の内容

- 1) クロチアニジン水溶剤 2000 倍、アセタミプリド水溶剤 4000 倍およびスピノサド水和剤 5000 倍液散布では、散布 3～14 日後のネギアザミウマ発生割合が 10 以下に抑制され、高い防除効果が認められた(図 1)。
- 2) ピリダリル水和剤 1000 倍液散布は、上記 3 剤に次ぐ防除効果が認められた(図 1)。
- 3) 雨よけハウスでのクロチアニジン水溶剤 2000 倍、アセタミプリド水溶剤 4000 倍、スピノサド水和剤 5000 倍およびピリダリル水和剤 1000 倍液散布では、いずれも散布 14 日後もネギアザミウマの発生を抑制した(図 1, 2)。

3. 普及上の留意点

- 1) 薬液が擬葉の中心までしっかりと付着するように 300ℓ/10a を丁寧に散布する。
- 2) ネギアザミウマ個体群の薬剤感受性は、地域によって異なる可能性がある。

(生産環境研究部)

4. 具体的データ

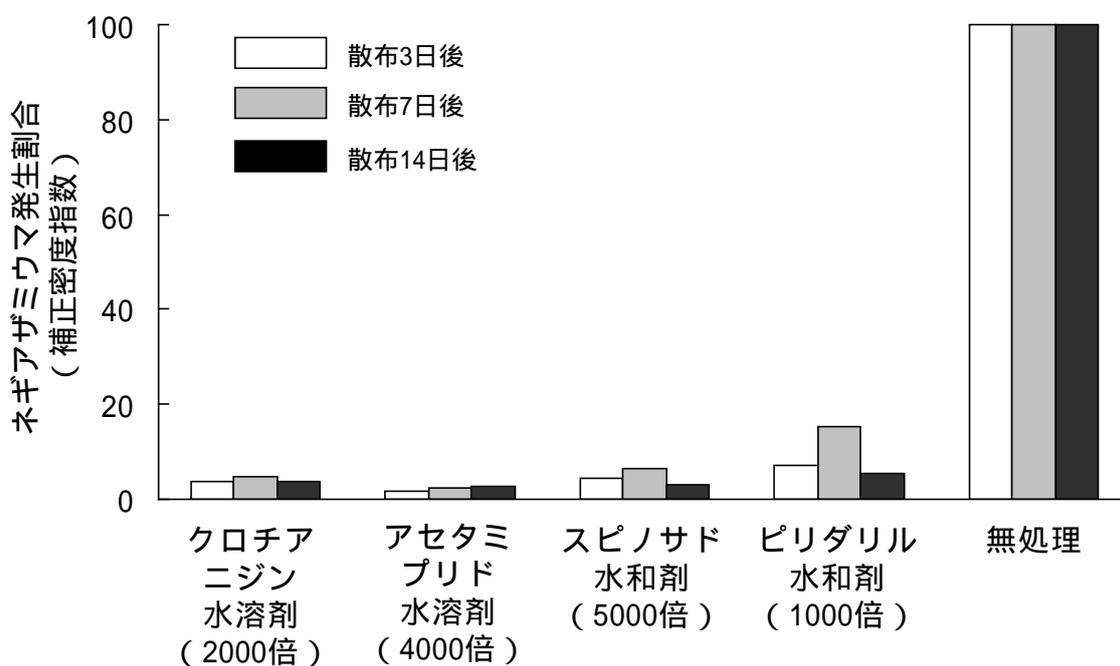


図1 ネギアザミウマに対する各種殺虫剤の防除効果

注) 対無処理を100とした場合の発生割合を示す。

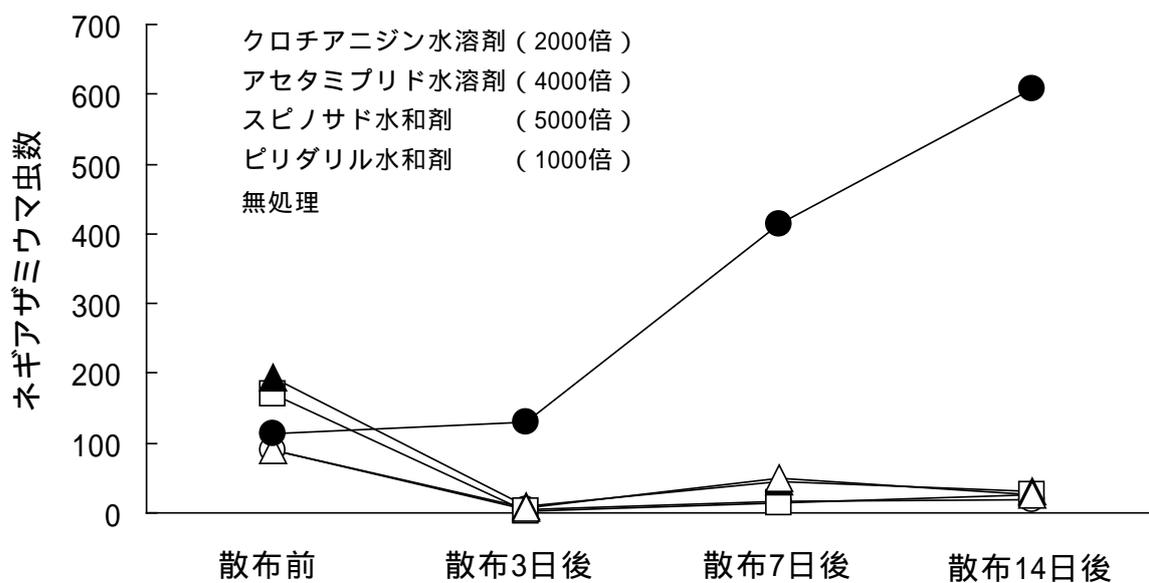


図2 薬剤散布後のネギアザミウマ発生量の推移

注) 圃場試験は2010年6月に三次市の雨よけハウスで実施し、擬葉上に生息するネギアザミウマを払い落とし法で調査した。